

長編ドキュメンタリー映画「石巻市立湊小学校避難所」

昨日で大震災から2年目を迎え、TVでも数日前から連日特別番組が数多く放送されていた。

報道特別番組ではないが、昨深夜放映された長編ドキュメンタリー映画「石巻市立湊小学校避難所」も見た。

震災間もない4月にある映画監督が避難所の一つとなった旧北上川に近い湊小学校を訪ね、避難所の底抜けに明るい様子に驚いたが、何日か過ごして解ったのは、笑顔の裏にある悲しみの大きさ。

笑顔の裏は一緒に過ごさないと解らない思い、避難所が閉鎖される10月までの6ヶ月、監督はたった一人で避難所に泊まり込んで避難者に寄り添いながらカメラを回し続け、ドラマチックに盛り上げよう、泣かせようということは一切せず、淡々と避難所の人々を追い続けた125分の長編ドキュメンタリー映画であった。

長期に渡り同じ避難所で寝泊まりするカメラに、被災者は「ぶっちゃけた話」と、例えば、ボランティアの人々が元気づけようと唄い出した歌に「それは今の自分たちにふさわしい曲じゃない！あの人たちは解っていない！」と怒る人、等々、当時決してマスコミでは報道されなかつたであろう本音を話している。

一方、震災前には交わることのなかった人たちの新しい出会いの姿も撮している。

例えば、70歳目の独り暮らしだった女性は仮設住宅に当選し避難所を出る日、「嫁入りの気持ちです」と言い、同室の1人が歌う長持唄に見送られ、「ここで親類がいっぱいできた」と顔をくしゃくしゃにする姿、等々。

そこにはどんなに困難な時であっても、互いに励まし合いながら生きる力を生み出していく姿が映し出されており、人間のもつ生命力の凄さ、素晴らしさを見る。

この映画は一切の説明のナレーションはなく、淡々と避難所の人々の姿を映し出してるだけに、自分がこうした状況に置かれた時、「あなたなら、どうする？」と、我々自身に否応なく問いかけてくる。

この映画は全国各地で自主上映されているようだが、鑑賞する機会があればぜひ見て欲しい。